

■自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人とのかかわり合いによって育まれた文化や自然を体験したり、楽しみながら学ぶことができるフィールドです。里の田園風景や、居久根、草原、湿地、牧野などの自然を再生しています。

■見どころ紹介

～里地の自然～

耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆います。秋は柿や栗が実り、懐かしさとぬくもりのあるみちのくらしい里地の風景が楽しめます。「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぐだけでなく、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根には山菜も植えられ、小さなヤマの役割をになっています。

～水辺の自然～

湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川・池

湿生花園では湿地を再生し、湿地特有の野草をタネから育て増やしています。カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、エソミソハギ、サウギキョウ等が咲きます。ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやカワトンボ等の水生動物が生息しています。

～草原の自然～

展望野草園・サクラソウ園・放牧区

茅などの草が暮らしの必需品であった時代には、各地に草原が維持されて、特に馬産が盛んな東北地方では、「牧」と呼ばれる広大な草原がありました。しかし、家畜や草が利用されなくなると草原もなくなり、草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、草刈や放牧で維持されていた動植物が豊かな草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウ、リンドウなど、50種類ほどの野草を、ボランティアさんが中心となってタネから育てて増やしています。野草が彩る広大な草原には、ヒバリやチョウ等、草原の生き物も増えてきました。放牧区ではヤギやヒツジを飼育し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。

～樹林の自然～

コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。



..... : 山羊ふれあい体験場所へのコース(230m) ▲ : 見所

～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳、雁戸山など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んで雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックラン近くの「ゆいっこ橋」を渡って歩いて行けます。



～体験施設～

自然共生情報館

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。

知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った料理やそば打ち体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園管理センター
TEL 0224-84-5991 (担当田代、葉坂)
〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9
<http://www.michinoku-park.info/wp/>



今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

イタチ・テン

ギャロップした時にできる2個ずつの足跡が特徴です。イタチは小川の近くでよくみられます。テンはイタチより大型です。



アナグマ

小熊のような足跡で、テンのようにギャロップして2個ずつの時もあります。屋間にとぼとぼ歩く姿を見ることがあります。



イノシシ

偶蹄目なので2つ足跡が残ります。かかとにある爪の跡が「ハ」の字型につくことが、ヤギやカモシカの違いです。



キジ

矢印のような足跡はどちらに進んだのかな？よく似たサギの足跡には小さな水かきがあります。



今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

ホンドタヌキ

自然共生園では一番見かける足跡で、犬の足跡によく似ています。肩幅があるので、よたよた歩きになります。



ホンドキツネ

キツネの足跡は、直線的で、前足と後足が重なり、おすましに歩きます。ネズミを狙ってジャンプしたような跡も見つかるかもしれません。



ノウサギ

大きな足が特徴です。後足をそろえて着地します。進行方向はどちらかな？最近冬に白くなるノウサギを見なくなりました。



ネズミ類

小さな両足で跳ねたあとの真ん中に、長いしっぽのあとが残ります。



みちのく公園北地区



てくてくマップ

自然共生園



1月・2月

今日はここを観てみよう！

■雪の日の足跡いろいろ

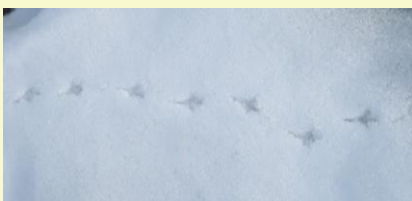
よたよた歩き

よたよた歩きの足あとは、よく見かけるカラスの足跡です。少し急いでいるときは、ぴょんぴょん跳ね、両足がそろいます。



トコトコ歩き

建物近くのコトコ歩きはセキレイです。



ホッピング

小さくぴょんぴょんと跳ねた足跡は、スズメやマヒワ等です。



カモ類

水かきがあるのですぐにわかります。内またのよたよた歩きです



今日はここを観てみよう！

■小鳥の群れ

冬の間、シジュウカラは他種の鳥と集団となって行動します。また、ヒワの仲間も畑地などに群れで飛来します。

シジュウカラ (B・C等)

カラ類の代表種で、「ツーピー、ツーピー」「ジジッ」と盛んに鳴きながら、枝先の虫や実などをついばんでいます。



アトリ (B・C・D等)

冬鳥としてシベリア等から飛来します。大群になることもあり、「集まる鳥」が転じて「アトリ」になったようです。



カワラヒワ (B・D等)

「キリリ、キリリ」と小さな声で鳴きながら、群れで地面に舞い降りて、草のタネ等を食べます。黄色の翅が目立ちます。



今日はここを観てみよう！

■冬の鳥

ジョウビタキ (位置 B・C・D等)

オスはお腹がオレンジ色で顔は黒く、翅の白い紋がよく目立ちます。「カッカッ」と火打ち石を叩くように鳴き、尾を震わせます。あまり人を恐れないので近くで観察できます。



ベニマシコ (位置 B・D等)

夏は北海道などで繁殖し、冬は本州に飛来します。オスは赤くなります。草むら等でタネを食べる様子がみられます。



ウソ (B・C等)

冬の間は山地から里地に降りてきます。オスは喉のあたりが赤くなります。口笛のような声で鳴き、サクラの蕾を好んで食べます。

